口腔外科学領域論文の情報科学的分析

(2) 論文発表機関

林 清広・待田 順治・清水 文夫
中村 不二・高橋 義孝

Analysis of scientific literatures on the oral surgery from the points of informational science

(2) Institutions of the authors

Kiyohiro HAYASHI・Junji MACHIDA・Fumio SHIMIZU
Fuji NAKAMURA・Yoshitaka TAKAHASHI

I. 緒 言

今日、学術論文は、われわれの臨床、研究等に関連して多くの貴重な情報を提供している。特にわたくしちに直接的に関与している医学、歯学、薬学領域での論文は、数年前から年間約10万編以上もの数に達し、現在でもなお経年的に増加傾向にある¹⁾といわれている。さらに口腔外科学領域のみをとってみても、その研究分野は次第に拡大されかつ細分化されてきており、その学術情報量はここ数年の間に急激に増大されてきている。しかしこれら領域の論文の組織的な分析は今日までほとんど行われたことがなく²⁾、この複雑化した多量の情報を効果的に利用することは非常に困難とされている。このような懸念から待田は日本口腔科学会雑誌第1巻(昭和27年)から第27巻(昭和53年)までに掲載されている論文を分析し情報科学的特徴を把握し、さらに口腔科学領域の学術論文を有効かつ円滑に活用する方法について検討し、その成果を発表している²⁾。

そこでわたくしたちは、同様な目的で日本口腔外科学会雑誌の第1巻(昭和30年)から第25巻(昭和54年)までに掲載された学術論文について情報科学の面から多角的に分析を行い、すでに主題分析については報告したが³⁾、今回は論文発表機関についての結果を日本口腔科学会雑誌についてのものと比較検討し、若干の知見を得たのでその概要を報告する。

II. 研究 方 法

1) 研究対象

日本口腔外科学会雑誌の第1巻(昭和30年)から第25巻(昭和54年)までに掲載された学術論文1,724編を対象とした。

2) 分析項目

下記4項目について分析した。

- ① 著者所属機関と論文数
- ② 論文数の年代変化
- ③ 論文発表機関における日本口腔外科学会雑誌の割合
- ④ 論文主題と発表機関

3) 分析方法

a) 著者所属機関

論文の著者(共同著者がいる場合には第1著者)が所属している機関は、大学については教室・講座または診療科ごとに分析し、名称に多少の相違はあるが、口腔外科(歯科口腔外科を含む)、口腔外科以外の臨床系機関、基礎系機関の3群に集計した。また大学を、医科大学(医学部を含む)と歯科大学(歯学部を含む)とに、さらに国公立大学と私立大学とにそれぞれ分類した。

大学以外の機関は、病院、診療所・開業医院、研究所に分類した。

なお大学などでみられるように、分析対象期間内で機関の名称や構成などが変化したものには、相応の注意をはらった。

b) 論文主題

論文主題の選定は待田²⁾、清水³⁾の方法にしたがい、それぞれの論文から主題を原則として1つずつ選んだ。

c) 論文数の年代変化

松本歯科大学口腔外科学第2講座(主任:待田順治教授)

Department of Oral Surgery 2, Matsumoto Dental College (Chief: Prof. Junji Machida)

受付日:昭和56年8月31日

表 1 論文数と発表機関との関係

論文数	国公立医大			私立医大			国公立歯大			私立歯大			その他			計
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	D	E	F	
1	6	1		1	1		2	2	2	1	2	3	25	6	1	53
2	5		1	2			2	1	2	2			9	2		26
3	1						2			8			3			14
4							1			1	1					3
5	1											1	3			5
6~10	7			3		1	7			6						24
11~15	1						1			6			1			9
16~20	1			1						3						5
21~25	3			1			3			3						10
26~30	1						1									2
31~50	5			1			4			1						11
51~	1			1			2			2						6
計	32	1	1	10	1	1	25	3	4	33	3	4	41	8	1	168

A 口腔外科, B その他の臨床系, C 基礎系, D 病院口腔外科, E 診療所・開業医院, F 研究所

表 2 発表論文数の年代変化：(1) 論文数 5 編以下の機関

論文数	機 関	期 間					計
		昭和30年 ~34年	昭和35年 ~39年	昭和40年 ~44年	昭和45年 ~49年	昭和50年 ~54年	
1	医大歯大	2	5		5	9	21
	その 他	6	6	5	5	10	32
2	医大歯大	3	1	3	1	22	30
	その 他	5	3	4	3	7	22
3	医大歯大	3			5	25	33
	その 他	2	1			6	9
4	医大歯大		2		1	9	12
	その 他						
5	医大歯大					10	10
	その 他		1	1	7	6	15
計		21	19	13	27	104	184
各期間の総論文数 に対する (%)		(10.0)	(7.0)	(8.7)	(6.8)	(14.9)	(10.7)

論文の発行年(巻数)を, 昭和30年~34年(第1巻~5巻), 35年~39年(6巻~10巻), 40年~44年(11巻~15巻), 45年~49年(16巻~20巻), 50年~54年(21巻~25巻)の5期間に分けて, 分析を行った.

d) 日本口腔外科学会雑誌への発表の割合

各機関において発表された論文のうちで日本口腔外科学会雑誌へのものが占める割合を, 下記の教室業績集などから算出した.

e) 集計作業

書誌事項およびコード化した著者所属機関名, 論文主題などを論文1編ごとに1枚のカードに記入し, それらを情報検索機(田中精機製, 640-I型)を使用して集計した.

III. 結 果

① 著者所属機関と論文数
著者所属機関と論文数との関係は表1のごとくであ

表 3 発表論文数の年代変化：(2) 論文数 6 編以上の機関

機 関		期 間	昭和30年 ～34年	昭和35年 ～39年	昭和40年 ～44年	昭和45年 ～49年	昭和50年 ～54年	計
愛 学 院		口外		△ 10	○ 9	1		20
	1	口外				8	13	21
	2	口外			1	○ 34	△ 23	△ 58
岩手医大		口外			3	9		12
	1	口外				6	13	19
	2	口外				1	2	3
大 歯 大		口外	△ 9		1			10
	1	口外				1	△ 20	21
	2	口外				8	15	23
大 阪 大		口外	△ 6					6
	1	口外		4	○ 9	△ 17	△ 28	△ 58
	2	口外		△ 10	△ 5	3	13	31
岡 山 大		口外	△ 9	○ 18	△ 6	5	9	△ 47
鹿児島大		口外			3	△ 10	△ 20	33
金 沢 大		口外			2	△ 18	10	30
九 歯 大		口外	○ 10	○ 24				34
	1	口外			○ 8	7	10	25
	2	口外		1	△ 5	7	13	26
九 大		口外	3	2	1	8	10	24
	1	口外					6	6
	2	口外		1			7	7
岐 大		口外	○ 15	○ 14	△ 6	8	11	△ 54
札幌医大		口外	3	1	2	△ 14	12	32
東 医 大		口外	4		3	7	△ 34	△ 48
東医歯大		口外	◎ 35	◎ 40	1			76
	1	口外		1	○ 9	△ 17	△ 33	60
	2	口外			1	11	△ 31	43
東 歯 大		口外	△ 7	3	3	○ 29	5	△ 47
	1	口外				4	10	14
	2	口外				5	△ 20	25
東女医大		口外	○ 20	◎ 43	◎ 18	△ 18	4	○ 103
東 大 医		口外	○ 13	○ 18	△ 6	2		39
千 葉 大		口外	3	6	3	3	16	31
日 歯 大		口外	○ 16	△ 12	△ 12	△ 17		△ 57
	1	口外				3	8	11
	2	口外					8	8
横 市 大		口外			1	9	△ 31	41
計 各期間の総論文数に 対する (%)			153 (72.9)	207 (76.9)	118 (78.6)	290 (73.2)	435 (62.2)	1,203 (69.8)

△：2.5%以上，○：5%以上，◎：10%以上（各期間の総論文数に対する%）

表 4 日本口腔外科学会雑誌への発表率

機 関	期 間 昭和 年	論 文 数		日口外 誌の%
		総 数	日口外誌	
岩手医大	40～50	95	24	25.3
新潟大 (1)	43～52	71	7	9.9
新潟大 (2)	49～53	50	9	18.0
医歯大 (1)	30～51	898	84	9.4
東歯大 (2)	30～50	186	37	19.9
愛学院 (1)	43～53	122	17	13.9
愛学院 (2)	42～51	98	51	52.0
三 重 大	30～51	92	8	8.7
大阪大 (1)	30～52	389	57	14.7
大阪大 (2)	31～51	401	40	10.0
神 戸 大	30～52	99	8	8.1
岡 山 大	46～51	69	10	14.5
九歯大 (1)	30～50	156	39	25.0
九歯大 (2)	30～54	239	31	13.0
九 州 大	30～49	217	13	6.0
鹿児島大	41～50	67	14	20.9
計		3,249	449	13.8

教室名 (1) は第 1 口腔外科, (2) は第 2 口腔外科
記載のないのは口腔外科

り, 論文の著者が所属していた機関の総数は 168 であった。そのうち論文数が 5 編以下のものは 101 機関であり, 総機関数の 60.1% を占めた。これらのうち医科大学・歯科大学に属するものは 52 機関で, その内分けは口腔外科が 35 機関, その他の臨床系 8 機関, 基礎系 9 機関であった。一方大学以外の 49 機関では病院が 40 機関で 81.6% を占め, 診療所・開業医院によるものが 8 機関, 研究所が 1 機関であった。

これに対し 6 編以上の論文を発表したものは 67 機関であった。その内分けはほぼ全数の 66 機関が医科大学・歯科大学に属するものであり, 残りの 1 機関は国立東京第 1 病院口腔外科であった。また医科大学・歯科大学 66 機関の内分けをみると 65 機関が口腔外科によるものであり, 残り 1 機関は東邦大学医学部の薬理によるものであった。

② 論文数の年代変化

昭和 30 年から昭和 54 年までの 25 年間で 5 期間に分け, 論文数の年代変化について分析した。各期間における論文数の合計は, 昭和 30～34 年 210 編, 35～39 年 269 編, 40～44 年 150 編, 45～49 年 396 編, 50～54 年 699 編であり, 40～44 年以外では経年的に増加していた。

発表論文数 5 編以下の機関を医科大学・歯科大学とそれ以外のものに分けると表 2 のごとくであった。医科大学・歯科大学によるものは初期 10 年間では計 16 編で同期間の論文総数 479 編に対し 3.3% の割合であったのに対し,

最近 10 年間では 87 編で総数 1,095 編に対し 7.9% の割合を占め, 論文数実数, 割合ともに増加の傾向を認めた。特にこの傾向は論文数 2 編と 3 編の機関に著明であり, 論文数 3 編の機関からは初期 10 年間で 3 編 (対総数比 0.6%) しか発表されていないのに対し, 最近 10 年間では 30 編 (対総数比 2.7%) と急激な増加を示していた。一方大学以外の機関をみると, 初期 10 年間で 24 編 (対総数比 5.0%) 発表されていたものが, 最近 10 年間では 44 編 (対総数比 4.0%) と割合では減少の傾向をみた。

次に多論文発表機関についての年代変化は表 3 の通りであった。これらの機関のなかには, 分析対象期間の間に機構改革があり, 1 講座から 2 講座に分かれたところもあるので, 分析は論文発表時の機構に従った。大多数の機関では論文数は経年的に増加している。しかし期間毎の総論文数に対する各機関の論文数が 10% 以上や 5% 以上 10% 未満のものは経年的に減少し, 2.5% 以上 5% 未満のものが増加している。またこれら多論文発表機関による論文数合計の各期間の総論文数に対する合計は 40 年～44 年を頂点として次第に減少してきている。

③ 論文発表機関における日本口腔外科学会雑誌の割合

論文発表の場としての本学会雑誌の役割を知る目的で, 研究機関において発表された論文の総数に対する本学会雑誌への発表論文数の割合を求めた。

表 4 にみられるように, 全機関における平均は 13.8% であり, 個々の機関では愛知学院大学第 2 口腔外科が特に多く, その他に 20% 以上のものが 3 機関認められた。

④ 論文主題と発表機関

各機関における論文主題の特徴を把握する目的で, 表 3 にあげた論文発表数が多い機関による論文について分析を行い, 表 5 のような結果を得た。

良性腫瘍では臨床的研究による論文が多くみられ, 岐阜大学口腔外科の 16 編をはじめ 10 編以上の論文発表機関が 5 機関みられた。一方その基礎的研究は, 臨床的研究に比べて少なく, 大阪大学第 1 口腔外科, 同第 2 口腔外科および東京歯科大学第 2 口腔外科において 3, 4 編みられる程度であった。

これに対し悪性腫瘍についての論文では, 臨床的研究論文を 5 編以上発表している機関が 5 機関, 基礎的研究論文では 4 機関あり, 良性腫瘍論文に比べ基礎的研究に取り組む機関の増加傾向をみる事ができた。

これら以外に, 1 機関から 10 編以上の論文が発表されている主題をみると, 嚢胞: 臨床的研究, 麻酔: 局所麻酔, 麻酔: ショック, 抗生物質: 基礎的研究, 奇形: 口唇裂口蓋裂がそれぞれみられた。

IV. 考 察

医学, 歯学に直接, 間接に関連したさまざまな研究が

表 5 主題項目別論文数と発表機関

機 関	主 題 項 目	良 性 腫 瘍			悪 性 腫 瘍			抗 悪 性 腫 瘍 剤		奇 形			炎 症			外 骨 折		顎 骨				麻 酔			抗 物 質		生 質 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		基 礎 的 研 究	臨 床 的 研 究	そ の 他	基 礎 的 研 究	臨 床 的 研 究	そ の 他	基 礎 的 研 究	臨 床 的 研 究	そ の 他	口 唇 裂 ・ 口 蓋 裂	そ の 他 の 裂 奇 形	そ の 他 の 奇 形	非 特 異 性 炎		骨	外 傷 ・ 軟 組 織	基 礎 的 研 究	顎 骨 の 変 形	そ の 他	骨 移 植 ・ 再 建 術	全 身 麻 酔	局 所 麻 酔	シ ョ ッ ク	基 礎 的 研 究	臨 床 的 研 究																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
														硬 組 織	軟 組 織																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
																												そ の 他	特 異 性 炎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外			口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外	口 外

表 5 つ づ き

主 題 項 目 機 関		良性腫瘍			悪性腫瘍			抗悪性腫瘍剤		囊 胞			奇 形			炎 症			外 骨		顎 骨			麻 酔			抗 物		生 質	計													
		良 性 腫 瘍			悪 性 腫 瘍			抗 悪 性 腫 瘍 剤		囊 胞			奇 形			炎 症			外 骨		顎 骨			麻 酔			抗 物																
		基礎的研究			基礎的研究			基礎的研究		基礎的研究			その他の奇形			非特異性炎			骨折		基礎的研究			その他の			骨移植・再建術				全身麻酔			局 所 麻 酔			シ ョ ッ ク		基礎的研究		臨床的研究		
		臨床的研究			臨床的研究			臨床的研究		臨床的研究			その他の奇形			硬 組 織			骨 折		基礎的研究			その他の			骨移植・再建術				全身麻酔			局 所 麻 酔			シ ョ ッ ク		基礎的研究		臨床的研究		
岐 大	口外	16			7					10			1			1	1		3	1	1			1	1	1			44														
		札 医 大	口外	8			12	1	1		2			1					2			1	1						30														
				東 医 大	口外	4			1	3	1						2						1	2		1		11	1	1	28												
東 医 歯 大	口外 1口外 2口外	1 2 8	9 5 8			1 1 8	1 3 1	6 2 1	1 1 1		2 2 1	7 7 1			2 2 1	3 2 1	3 1 1	2 1 1	1 1 1	5 1 1	1 1 1		2			3	3		1	1	54 30 36												
		東 歯 大	口外 1口外 2口外	9 12							2 1	2 1		4 3	1 1	1 3			2 2 1	2 2 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1						3 3 1	3 9 23	32 9 23												
				東 女 医 大	口外	5	5	1	3			1					8	1		5		3				2	18	1	5	7	60												
東 大 医	口外		5			1	1	2	1		2			2	1	1					2				1		1	2	22														
		千 葉 大	口外	1	3		6	10	2		1	2				1											1	1	28														
日 歯 大	口外 1口外 2口外			11 1 3				3			1	7 3 1			1	1				1	3		4	2	1	2	3		2	42 5 9													
		横 市 大	口外	4							2			2	2	1	2	3			2								29														

各方面から行われ、またこれら多くの研究に対応する施設の拡充整備がなされてきた。その結果これらの機関の従事者により提供される情報量も急激に増加し、この膨大な量の情報を効果的に利用することが困難であるといわれている。清水ら⁸⁾はこれら情報を効果的に活用するための2次資料として医学中央雑誌をあげているが、同雑誌では索引語があいいうえ順に羅列されているだけで分類表がない事や、口腔科学関連の索引語が少ない事などから検索効率の悪さが指摘され、より一層の改善が望まれている。そこでわたくしたちは医学・歯学についての情報資料の1つである本学会雑誌をより迅速、的確に把握理解し有効かつ円滑に活用するための資料の一部として本研究を行った。

今回の日本口腔外科学会雑誌(日口外誌)についての分析結果を日本口腔科学会雑誌(口科誌)の第1~27巻に掲載されている1,268編の論文についてのもの⁹⁾と比較検討しつつ考察を加える。各論文の著者の所属機関すなわち論文発表機関の総数は、日口外誌では168で口科誌に比べ17機関の減少を認めたが、これは前者が口腔外科学を中心としているのに、後者では口腔科学の広範囲を対象としているためであろう。論文数5編以下の少論文発表機関は日口外誌では101機関であり、口科誌に比べ36機関も減少していた。他方論文数6編以上の多論文発表機関は日口外誌で67機関(対機関総数比40%)であるのに対し口科誌では20機関(対機関総数比26%)であった。これらの事実は、一定の機関から集中的に論文の投稿を受けていることを示すものである。また両雑誌とも、論文発表機関と論文数との間にバラートの法則が成立するが、その傾向は口科誌の方が典型的である。

これら論文発表機関の内分けをみると、少論文発表機関では病院口腔外科の割合が多く、多論文発表機関では医科大学・歯科大学の口腔外科に集中する傾向がみられ、これは口科誌のものと類似していた。

次に論文数の年代変化についてみると、少論文発表機関では口科誌の年代変化に類似しており、医科大学・歯科大学の口腔外科による論文数が初期に比べ増加し、大学以外の機関は逆に減少してきている。他方多論文発表機関の大部分においても論文数は経年的に増加しているが、総数に対するその割合は次第に低下している。これらの事実は、本学会雑誌が近年より多くの大学の口腔外科からの投稿を受けていることを示している。またこれは著者らがすでに記した論文主題の多様化⁹⁾とともに、本学会雑誌の特徴の1つといえる。

次に論文発表機関における日口外誌への平均発表率と口科誌へのそれを比較してみると、前者では13.8%であり、後者の9.2%に比べ若干高い値を示した。この数値は16機関についてのものであり、調査期間も均一でないため、これが全国的現状とは断言できないが、ある種の傾向を示しているといえる。

論文主題と発表機関との関係では、両雑誌とも悪性腫瘍について発表している機関が多い点は共通しているが、それ以外に日口外誌では良性腫瘍の臨床的研究について発表している機関が多かった。これは腫瘍とくに良性腫瘍の症例報告が非常に取扱いやすい主題であること⁸⁾を示している。

以上のように本学会雑誌について分析を行ったが、今後はこれら情報の特徴をよく理解し、医療に関する研究をいかに人間に還元するかを追求する事がわたくしたちの課題であると思われる。

V. 結 語

学術情報量は今日急激な増大を示してきている。そこでわれわれは情報科学の面から学術論文の特徴を把握し円滑かつ有効に利用する方法を検討する目的で今回は日本口腔外科学会雑誌(日口外誌)の第1巻(昭和30年)から第25巻(昭和54年)までに掲載された論文1,724編を、主として論文発表機関の面から分析し、次のような結果を得た。

1) 本学会雑誌に掲載されている論文の著者が所属している機関総数は168機関であった。そのうち論文数5編以下の少論文機関が101機関、6編以上の多論文機関が67機関であった。後者は2機関を除き大学の口腔外科であった。

2) 論文数の合計は、少論文発表機関によるものが184編であるのに対して、多論文発表機関によるものは1,540編で、一定の機関によって集中的に発表されている。

3) 論文数の年代変化については、少論文発表機関のうち医科大学・歯科大学に属するものでは論文数が次第に増加しているが、逆に大学以外の機関では減少がみられた。また多論文発表機関の大部分では論文数が増加する傾向がみられたが、論文総数に対するその割合は次第に低下していた。

4) 論文発表機関における日本口腔外科学会雑誌への発表率は調査した機関の平均で13.8%を占めた。

5) 論文発表機関ごとに論文主題をみると、ほとんどの機関で良性腫瘍の臨床的研究が最も高頻度であったが、それ以外にも各機関の特徴がうかがえた。

本論文の要旨は第25回日本口腔外科学会総会(徳島、1980年)にて発表した。

引用文献

- 1) 学術審議会：今後における学術情報システムの在り方について。学術月報 32: 724 1980.
- 2) 待田順治：口腔科学領域論文に関する情報科学的研究。口科誌 29: 549 1980.

3) 清水文夫, 他: 口腔外科学領域論文の情報科学的分析 (1) 主 題 分 析, 日 口 外 誌 27: 1413 1981

資 料

岩手医科大学口腔外科学教室開講10周年記念誌研究業績目録 (昭和50年)
新潟大学歯学部口腔外科学第 1 教室開講10周年記念業績集 (昭和52年)
新潟大学歯学部口腔外科学第 2 講座開講 5 周年記念業績集 (昭和53年)
東京医科歯科大学歯学部第 1 口腔外科学教室 上野 正教授 業績目録 (昭和52年)
東京歯科大学口腔外科学教室第 2 講座 高橋庄二郎教授 開講10周年記念研究業績集 (昭和51年)
愛知学院大学歯学部第 1 口腔外科学教室 永井 巖教授退職記念誌 (昭和54年)
愛知学院大学歯学部第 2 口腔外科学教室 河合 幹教授 業績集 (昭和52年)
三重大学医学部口腔外科学講座 田島時博教授 研究

業績目録 (昭和51年)
大阪大学歯学部口腔外科学第 1 講座 永井 巖教授 退官記念研究業績集 (昭和44年)
大阪大学歯学部口腔外科学第 1 講座 宮崎 正教授 就任10周年記念業績集 (昭和53年)
大阪大学歯学部口腔外科学第 2 講座 川勝賢作教授 定年退官記念業績集 (昭和52年)
神戸大学医学部歯科口腔外科50周年記念業績集 (昭和52年)
岡山大学医学部口腔外科学教室 西嶋克巳教授 開講 5 周年記念研究業績目録 (昭和51年)
九州歯科大学口腔外科学第 1 講座 平川正輝教授 業績目録 (昭和50年)
九州歯科大学口腔外科学第 2 講座 池尻 茂教授 研究業績目録 (昭和54年)
九州大学歯学部口腔外科学教室 藤野 博教授 業績目録 (昭和49年)
鹿児島大学医学部歯科口腔外科学講座 塩田重利教授 開講10周年記念業績集 (昭和51年)